

今宮

今宮は、御本殿の裏からいくらか距離がある木立の中に建てられた、質素な神社です。日本で初めて武士が率いた政権である鎌倉幕府に反逆したもののそれに失敗し、その行為で厳しい罰を受けた3人の天皇の魂を鎮める為に祀っています。源氏が1192年に幕府を立ち上げたことで、京都の朝廷は無力な状態となり、貴族の反感が高まりました。しかし、1221年に、日本の統治権を取り戻すチャンスが訪れたかのように思われました。その2年前に、3代将軍の実朝（1192-1219）が亡くなったことで源氏の将軍の血筋が途絶えたこともあり、幕府の正統性が問われる状況になったのです。

後鳥羽上皇（1180-1239）は、将軍の執権で事実上の統治者であった北条義時（1163-1224）を離反者であると宣言し、義時追討のために挙兵しました。しかし、東日本の武士は幕府への忠誠を変えず、この反逆は押さえ込まれました。後鳥羽上皇と息子たちの土御門上皇（1196-1231）と順徳天皇（1197-1242）は京都から追放されました。3人とも追放された身として、都を二度と見ることなく亡くなりました。

中世の日本では、生前に不当な扱いを受けた人物の魂は、不当な扱いを行った者に復讐するために戻ってくることがあると考えられていました。ここに1247年に今宮が建てられたのは、この3人の天皇の魂を鎮めるためです。今宮はその後、鶴岡八幡宮によって大切にお祀りされています。